

新規指定の重要文化財

名 称	しんしゅうほんびょうひがしほんがんじないじ 真宗本廟東本願寺内事	棟 数	3棟
所 在 地	しもぎょうくからすまどおりしちじょうあが ときわちょう 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町		
所 有 者	宗教法人 真宗大谷派		
指定基準	(一) 意匠的に優秀なもの (三) 歴史的価値の高いもの		
建 物 名	構 造 形 式	建 立 年 代	
ようかん 洋館	鉄筋コンクリート造、建築面積一三一六・二三平方メートル、二階建一部三階建、棧瓦葺、南・北渡廊下附属	大正12年 (1923)	
にほんかん 日本館	木造、建築面積七九三・六四平方メートル、棧瓦葺、東・南渡廊下、小書院附属	大正12年 (1923)	
つるま 鶴の間	木造、建築面積二〇六・八二平方メートル、二階建、棧瓦葺、東渡廊下附属	大正12年 (1923)	
[解説]			
<p>—先進的な意匠を取り入れた武田五一設計の壮大な二世帯住宅—</p> <p>稀代の建築家、武田五一による和洋を併設した住宅建築。内事とは、東本願寺代々の宗主及びその家族の居住空間と、これに給仕する事務組織の執務空間からなる。現在の建物は、日本館と洋館、鶴の間からなる宗主と次期宗主のための大規模な二世帯住宅で、大正12年に建設された。</p> <p>特に洋館は、セセッション（1890年代にドイツ圏で起こった芸術運動）の造形上の特徴や、フランク・ロイド・ライトの造形を取り入れたモチーフを効果的に配する。また、鉄筋コンクリート造の住宅として最初期の事例であり、近世から続く家政機能を継承しつつ、防火に考慮した耐火建築として近代的に解決したもので、歴史的価値が高い。</p>			



内事 日本館 外観



内事 洋館 外観

写真はすべて、真宗大谷派（東本願寺）提供